

## 緩和ケア病棟

# さとわ

No.6

### 緩和ケア病棟「郷和」<sup>さとわ</sup>理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

## 郷和、この1年

施設長 桜井 金三

開設以来8年、入院希望の方にお待ちいただくことは、まれにしかありませんでした。しかし今年は、患者さまご家族の意識の高まりを反映してか、夏以降常時5人以上の方がお待ちになっておられます。都市部のホスピスではこのようなことは常態化している、と聞いていましたが、郷和でも同様になっていくのかもしれませんが、病棟運営にあたり、どう工夫していけばよいのか思い悩む毎日が続きます。これは新潟県の緩和ケア全体の中で考えていく課題でもあります。

遺族会では、「1年以上たって今日始めて涙が出ました」と語られたご遺族の言葉が印象に残りました。ボランティアでは、この1年で新しく5名の方に参加していただきました。養成講座に代わる研修を責任を持って行っていきたいと考えています。緩和ケア研修（看護師向け）も2年目の研修を行い、たくさんの看護師さんにご

参加いただきました。今後は医師向けの研修が課題になってきます。

本年4月、診療報酬改訂で緩和ケア病棟に24時間体制での地域連携が義務付けられました。しかし具体的になんら動けていないのが実情です。郷和からの訪問診療は、開設以来希望の方に行ってきましたが、より多くのがん患者さんの自宅療養のご希望にこたえるには、もっとたくさん診療所の先生から緩和ケアに参加していただかなければなりません。具体的な「処方箋」を持っているわけではありませんが、全国の先進的な取り組みを参考にしながら、行動に移していきたいと思っております。

## 「認定看護師の活動について」

### 南部郷厚生病院・緩和ケア病棟「郷和」 緩和ケア認定看護師 小池 宜子

私は2007年に緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。取得後の活動のテーマは「緩和ケアを広めること」です。では具体的な活動を報告します。

#### 1. 緩和ケアに対する間違ったイメージを払拭すること

残念ながら、いまだに緩和ケア病棟は、死にゆくところというイメージを持つ人が多いのが現状です。そのイメージを変えられるよう、市民フォーラムにおける啓蒙活動を行なっています。

看護学生も「暗い・死ぬところ・働きたくない」というマイナスイメージをもっています。その人らしく生きるという視点で、緩和ケア総論を教えています。

#### 2. 郷和のケアの質の向上に努めること

独自の教育ラダーに沿った教育プログラムを立ち上げました。今年で3年目ですが、各スタッフが自分の能力にあった段階の課題を達成しています。入職1年目の看護師でも無理なく学べます。希望者はいつでもどうぞ。

#### 3. 緩和ケアにおける基本的な知識・技術を習得し、緩和ケアの中心となる看護師を育成する

一般病棟でも、在宅でも、質の高い緩和ケアが提供できるよう、近隣の医療機関および訪問看護ステーションに勤務する看護師を対象に、2007年から「緩和ケア研修」を開催しています。これは大変好評です。

また新潟県看護協会の講師や、県立がんセンター新潟病院のがん看護実務研修の講師、他病院の学習会の講師をしています。

2008年から「緩和ケアに携わる医療スタッフのための新潟県緩和ケア研修」が始まり、この研修のスタッフもしています。

#### 4. 関連学会への積極的な参加

2007年度、日本家族看護学術集会において「緩和ケアにおける家族ケア」と題してセッションを行ないました。2008年度は緩和医療学会で「地域看護師を対象とした緩和ケアの普及 ～緩和ケア研修を開催して～」というテーマでポスターセッションに参加しました。

緩和ケアとは「生命を脅かす疾患を持つ患者とその家族に対して、疾患の早期より痛み、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな（霊的、魂の）問題に関してきちんとした評価を行い、それが障害とならないように予防したり対処したりすることでQOLを改善するためのアプローチ」です。

どのような疾患を持つ患者・家族に対しても適応される大切なケアです。微力ながらこのような活動を積み重ね、緩和ケアの普及に尽力していきます。

## 「郷和でのボランティア」

ボランティア 松沢 久仁子

郷和でのボランティア活動は開設の次の年からでした。初めての経験の中、何をどうすればよいのかとても不安でした。

何度も壁にぶつかりその都度、看護師さん達と話し合いを重ね、又ボランティア講座で勉強したりと試行錯誤を繰り返しながら少しずつ郷和に慣れてきました。

今では12～13人のボランティアが1人または2人組で月2～3回活動をしています。各部屋の入り口にお花を生けたり3時にはお部屋へお好みのお茶を届けたりします。また、憩いの間に出てこられた患者さんやご家族の方と時にはお話をしながらお茶の接待をします。

月に1度は時節に合った行事が行われます。村松公園に近いことも幸いしお花見や納涼会、そば打ち、初釜など私たちのできることをお手伝いしています。

私はお天気の良い日は自転車で30分ほどかけて通っています。ある時ご家族の方が私が生けたお花を見て「やはり花が生けてあるとほっとします。いいですねえ。」と言葉をかけてくださいました。私は常にその言葉を心にとめ、道すがら、つくし、ふきのとう、すすき、野菊など摘みながらなるべく季節を感じていただけるよう、外の風を入れてあげられたらと心がけて居ります。これからも気負うことなく、ただそこに居るだけで皆さんがほっとして和やかな気持ちになっていただけるように心がけて活動したいと思っています。

## 水墨画



10月22日（水）水墨画の行事を開催しました。

音楽にあわせてのパフォーマンスを見たりキーホルダーを作ったり、患者さまやご家族にも大変好評でした。

久しぶりに”すみ”に触れ、美術の秋を堪能しました。

緩和ケア施設「郷和」では食べる喜びを感じていただきたいという思いから、患者様の希望にできるだけ沿った食事の提供を目指しています。

個別対応は、調理スタッフの協力により、すぐ対応可能です。私は良い人材に恵まれ感謝しています。

ですが「郷和」の食事は併設の南部郷厚生病院で調理されており、給食業務は全面委託していることから、すべての希望を叶えられないのが現状です。

そんな中、「郷和」の患者様が看護師さんと共にスー

プを作り、召し上がったとのお話をお聞きしました。「食べたいものを食べたい人のために心込めてつくる」食事の本来あるべき姿だと、実感しました。いつか「郷和」に関わる管理栄養士として、そのようなお手伝いもできたらと考えています。

これからも、患者様に「郷和」の穏やかな雰囲気の中で、心温まる食事を召し上がっていただけるよう調理スタッフ一同、努力してまいります。よろしく願いいたします。

### 「郷和」利用状況

(H.19年4月～H.20年3月)

入院患者数	129名
一日平均入院利用者数	14.3名
平均病床利用率	70.8%
平均在院日数	42.3日

発行年月日 平成20年11月1日

編集・発行 南部郷厚生病院  
緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1704 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL (0250) 58-6111(代) FAX (0250) 58-7300